

資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究

国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官 後藤 顕一

I 研究のねらい

これから求められる資質・能力の育成に向けては、「学びの質や深まり」「主体的・協働的な学び」などが重視されている。資質・能力の育成に資する目標・内容・学習活動・指導・評価、さらに指導に向けた支援等について、理論的研究、実証的研究を行うことをねらいとしている。

II 研究の内容

- 1 求められる資質・能力の構造化
- 2 内容と資質・能力と学習活動との関係の明確化
- 3 学びの質や深まりに向けた主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等の検討

III 研究の成果と課題

研究の成果

1 **資質・能力目標の構造化**・・・これら社会の変化の動向等に着目しつつ、これらに必要な資質・能力について、我が国で培われてきた教育の分析、研究開発学校等の先行事例分析、諸外国の動向分析等を行ってきた。それらを基に「思考力」を中核とし、支える「基礎力」、使い方を方向づける「実践力」の三層構造で資質・能力目標を構造化して整理した。

2 **内容と資質・能力を学習活動でつなぐことの重要性**・・・現行学習指導要領の分析では、次の形式が複数の教科で採用されていることがわかってきた。「〈(内容)〉について、〈(活動)〉を通して(学習し)、〈(資質・能力)〉を育てる(できるようにする)」これらをつないでいくことが重要であることがわかってきた。



3 **効果的な学習活動に向けての示唆**・・・求められることは、学校生活や全ての教育活動を活動型にしたり、単に子供を活動的にしたりすることではなく、学校生活や授業を通して、子供の基礎力・思考力・実践力が深まるような活動であるべきと考える。そのためにはむしろ、自然とアクティブな活動を生み出すような内容の充実が伴われなければなるまい。日常生活や社会、環境とのつながりを考え、意味のある本質的な問いや課題で学びの文脈を創る必要もあろう。育てたい資質・能力の育成に向けて、内容と効果的な学びをもたらす活動を結び付けて、一体としてとらえていく必要があると考えられる。

今後の課題

現行学習指導要領が重視している「見通しと振り返り」も含め、子供が問題意識を持って、自分で考え、仲間と話し合い、発表し合ったりする等、多様な学習活動を構想することが求められるであろう。そのためにはエビデンスとなるような国内外における効果が期待できる実践事例、また、カリキュラム・マネジメント・サイクルを取り入れた指導改善例、効果が期待できる指導支援方策例等、具体的な取組事例の収集・整理・検証・共有等が求められている。